

# 新年度の町づくり一般会計65億円の使いみち



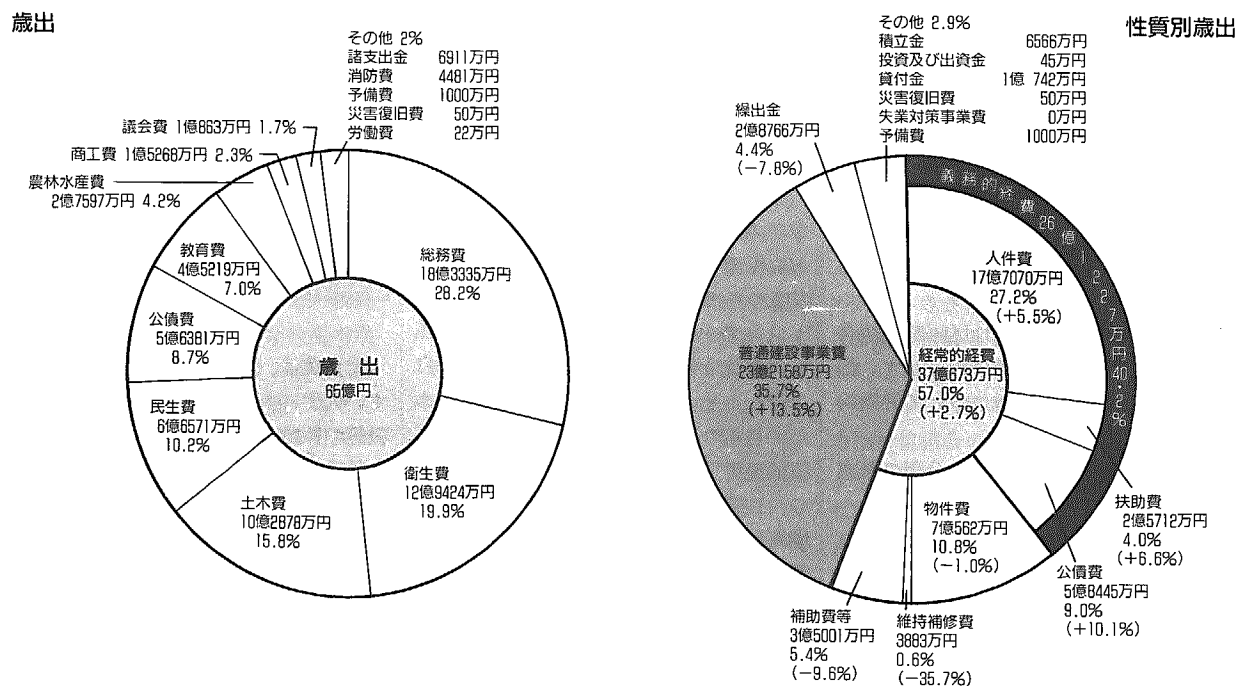
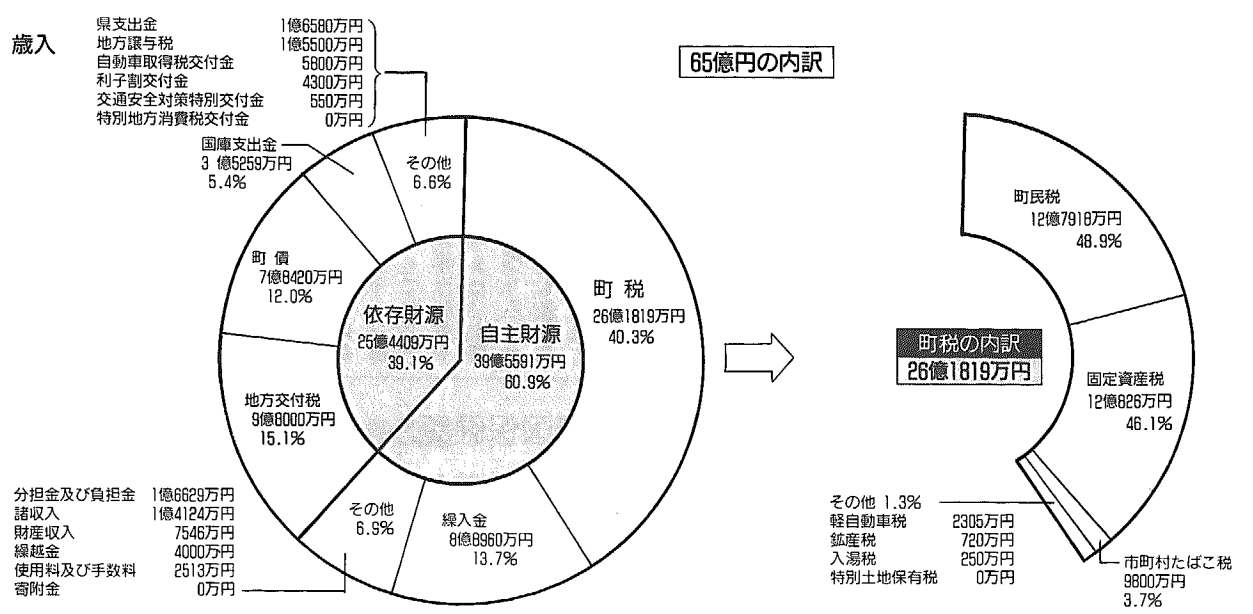
## 平成六年度 一般会計当初予算

# 65億円

町民1人あたりでは  
27万259円

(2月末日現在)  
の人口で計算)

(年度)	町税	その他
平成6	26億1819万円	65億円
5	24億3798万円	62億2000万円
4	21億7907万円	57億5000万円
3	20億1311万円	53億3000万円
2	18億4631万円	51億3000万円
元	16億3821万円	46億7000万円



一般会計予算…前年度とくらべてみると

	平成6年度	平成5年度
◆総額	65億円	62億2000万円
◆前年度比	+4.5%	+8.2%
◆町民1人あたりでは	27万259円	26万556円
◆自主財源	39億5591万円	35億5017万円
歳入の中での割合	60.9%	57.1%
◆町税	26億1819万円	24億3798万円
歳入の中での割合	40.3%	39.2%
◆町債(借入)	7億8420万円	6億2040万円
歳入の中での割合	12.0%	10.0%
◆地方交付金	9億8000万円	12億1400万円
歳入の中での割合	15.1%	19.5%
◆人件費	17億7070万円	16億7867万円
歳入の中での割合	27.2%	27.0%
◆公債費(借金の返済)	5億8381万円	5億3021万円
歳入の中での割合	8.7%	8.5%
◆普通建設事業費	23億2158万円	20億4574万円
歳入の中での割合	35.7%	32.9%

町へは毎年、町民の皆さんからいただいた町税など多額のお金が入ります。それらのお金は町民の皆さんのために有効に使わなくてはなりません。学校教育、老人福祉、道路・下排水の整備など。これらのお金の入り方と使いみちの計画を予算といいます。平成六年度予算が町議会の三月定例会で承認されたのでお知らせします。

前年度より45%増の歳出  
一般会計予算とは、町民の皆さんからいただいた町税や国庫からの補助金などを町がどのように使うかを年度初めに決めたものです。その年度(4月1日～翌年3月31日)の町政の基本となります。

前年度より45%増の歳出  
年度途中で事業を変更したり、予定した町税や補助金が増減した場合は補正予算が組まれます。(年度初めに決めた予算は、補正予算に對し、当初予算と呼びます。)

平成六年度の一般会計当初

自主財源の割合は61% 歳入  
予算は、総額65億円で、前年度より2億8000万円の増となっています。伸び率は4.5%。町民一人あたりでは27万259円となり、前年度より9703円増えています。

性質別に予算を見ると、人件費や公債費(町の借金の返済)物件費などの必要不可欠な経費(経常的経費といいますが57%を占めています。道路や学校などの各種施設を建設するための費用である普通建設事業費は23億2158万円です。)

自主財源の割合は61% 歳入  
歳入では、町税を26億1819万円と見積りました。前年度より1億8021万円の増です。町税のうち町民税は12億7918万円(前年度より6112万円増)固定資産税は12億826万円(前年度より1億1536万円増)を見込みました。

繰入金、町の貯金である基金を取り崩したのも、8億8960万円を計上しました。このうち都市整備基金から2億円、財政調整基金から1億8000万円などを繰り入れます。分担金及び負担金はほとんどが保育料です。財産収入はほとんどが町の貯金である基金の利子。諸収入は商工費貸付金の元利収入や預金利子などです。以上が町だけで

まかなえる自主財源で、前年度より4億575万円増え、歳入に占める割合も60.9%と昨年よりも3.8ポイント増えています。

依存財源は、前年度より1億2575万円減の25億4409万円です。このうち、地方交付税が9億8000万円、国庫支出金が3億5259万円、県支出金が1億6580万円、地方譲与税が1億5500万円と見込まれています。

このほかどうしても必要なのは借金しなくてはなりません。これが町債で7億8420万円、前年度より1億6380万円増えました。町債の残高は、平成六年度末には55億4297万円になる見込みです。